

平成29年度 国有林野事業業務研究発表会

と き 平成29年11月30日（木）

ところ 農林水産省 第一会場：第3特別会議室（本館7階 ドアNo.714）

第二会場：共用第1会議室（本館7階 ドアNo.767）

【開 会 式】 第一会場 9:30～ 9:45

【各部門発表】

- ・ 森林技術部門 第一会場 10:00～16:05
- ・ 森林保全部門 第二会場 10:00～12:10
- ・ 森林ふれあい部門 第二会場 13:10～15:45

【特別発表】 第一会場 16:05～16:35
「ドローンによる森林観測技術」

【講評・授賞式】 第一会場 17:00～18:00

【森林技術部門】 14課題



林業の低コスト化等に向けた森林施業技術、災害時のヘリ調査、木材利用の促進、シカ食害防止技術の取組等について

【森林保全部門】 6課題



多様な森林生態系の保全部門、希少な野生動植物の保護の取組等について

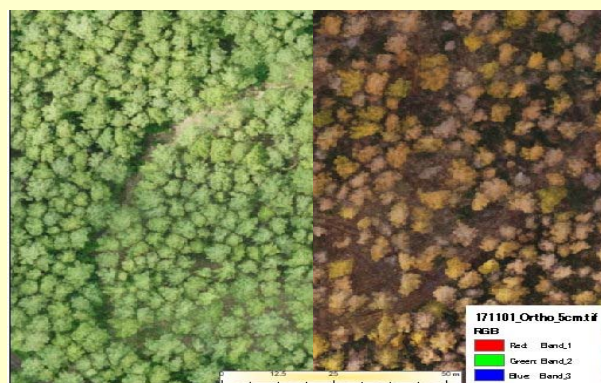
【森林ふれあい部門】 7課題



国有林を活用した地域振興、地域と連携した森林環境教育の推進、地域課題解決に向けた取組等について

【特別発表】

「ドローンによる森林観測技術」



平成29年度 国有林野事業業務研究発表会 発表課題一覧

〔森林技術部門〕

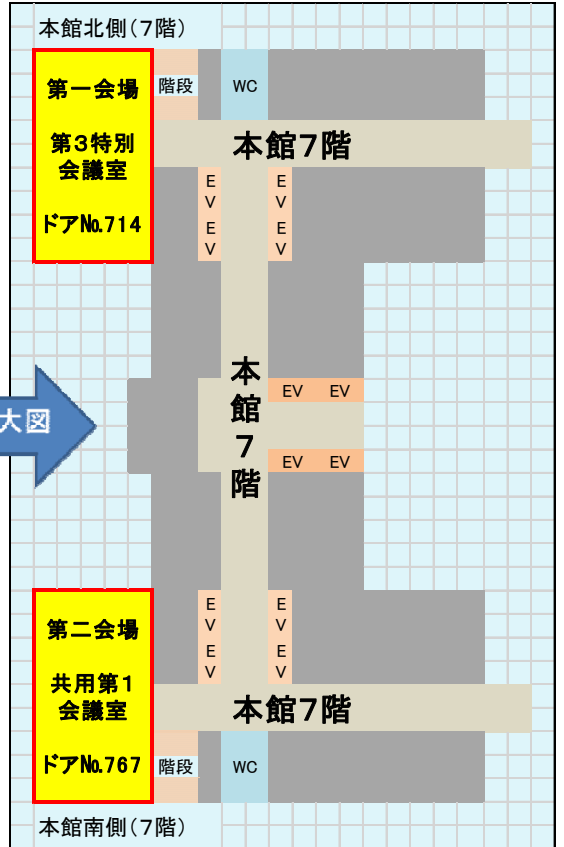
第一会場：農林水産省 本館7階 第3特別会議室

No.	発表時間	発表課題名	発表者		
			森林管理局	森林管理署等	氏名(元所属)
1	10:00	北海道国有林におけるコンテナ苗の効果の検証	北海道	森林技術・支援センター	山岸 孝一
	10:20			森林整備部 森林整備第一課	宿南 恭兵
コンテナ苗は、低コスト造林への期待のもとに導入され利用が拡大しているが、北海道の主要造林樹種での効果や活用方法は試行段階にある。道内各署で得られたデータから、造林コスト低減に向けた効果を検証する。					
2	10:20	20年経過した低密度植栽試験地から低コスト造林を考察する	関東	森林整備部 森林整備課	上田 萌香
	10:40			棚倉森林管理署	町田 貴弘
低密度植栽試験地の3調査区(ヘクタール当たり600本、800本、1,200本植栽)における調査結果に基づき、植栽密度の考え方を整理し、再造林コスト削減、植栽密度の違いが将来の成長に与える影響等について発表する。					
3	10:40	大苗植栽による低コスト造林方法確立への取組	九州	大分森林管理署	渡辺 行直
	11:00				
【休憩 10分】 11:00 ~ 11:10					
4	11:10	再造林の低コスト化に向けて放つ4本の矢 ～①一貫作業②コンテナ苗③低密度植栽④天然更新～	北海道	森林整備部 森林整備第一課	小林 龍雄 (元 上川南部森林管理署)
	11:30			上川南部森林管理署	新井 雄大
主伐期に達した林分が増加する中、確実な更新を確保するため、再造林経費の低コスト化が課題となっている。この課題克服に向け、平成27～29年度にかけて挑戦してきた4つの取組について発表する。					
5	11:30	伐採跡地のヒノキ天然更新過程について	中部	木曾森林管理署	久保 喬之
	11:50				池端 久美子
木曾ヒノキの天然更新について、現在の林分の状況から伐採跡の更新過程を推測するとともに、実生の状況から更新に有利な条件について考察する。					
6	11:50	山地災害発生時におけるヘリ調査の留意点について	東北	計画保全部 治山課	有馬 俊英
	12:10				
【昼休み 60分】 12:10 ~ 13:10					
7	13:10	初回間伐における立木システム販売の試み ～経費削減と森林整備～	関東	磐城森林管理署	福岡 恵子 (元 茨城森林管理署)
	13:30			株式会社トーセン	小高 哲夫
平成26年度から茨城署と塩那署で行われている「国有林材の安定供給システム販売」を活用した低質材供給の取組について間伐方法の違いによる業者の事業コストの比較や、事業実行過程で生じた課題の一考察を発表する。					
8	13:30	ヒノキ・ケヤキ混交林におけるケヤキの成長	中部	飛騨森林管理署	西村 千夏
	13:50				大嶋 一輝
広葉樹施業のためのデータ蓄積の一環として、明治43年に植栽されたヒノキとケヤキの混交林において標準地調査を実施し、過去のデータとの比較を行うとともにケヤキの成長状況について考察する。					
9	13:50	宮城北部森林管理署における斜め張り防鹿柵の事例報告	東北	宮城北部森林管理署	土谷 徹
	14:10			三陸北部森林管理署久慈支署	小林 あずみ (元 宮城北部森林管理署)
ニホンジカによる森林被害に対し、設置コストが低い「斜め張り防鹿柵」を導入し、この事例を報告するとともに、長期運用コストをシミュレーションし、他の方式の防鹿柵と比較し、「斜め張り防鹿柵」のメリット、デメリットを考察した。					
10	14:10	シカによる緑化被害の対策について	近畿中国	和歌山森林管理署	小林 正典 岡井 邦仁
	14:30			広島森林管理署	秋田 顕二 (元 和歌山森林管理署)
治山事業におけるシカによる緑化被害対策のため、シカの行動等を調査し、シカが侵入できない条件を分析。竹被覆による侵入防止工法を検討した。また、工夫を凝らした方法によりシカ捕獲を行った。					
【休憩 15分】 14:30 ~ 14:45					
11	14:45	低コストで効果的な獣害防止対策(斜め張り・L型ネット)及びドローンを活用したシカネット巡視の取組について	四国	嶺北森林管理署	吉本 和正 (元 安芸森林管理署)
	15:05			安芸森林管理署	福山 敦之
今後、森林資源の循環的な利用を図る上で、伐採後の再造林が確実に実施され、低コストでの施業がいつそう重要となっている。今回、効率的かつ効果的なニホンジカ食害対策等を検討し、併せてドローンを活用したネット巡視の取組を行ったので発表する。					
12	15:05	シカネットにおける「宙かせ張り」の実施検証について	九州	西都児湯森林管理署	田中 善成
	15:25				
13	15:25	立木を利用した斜め張り防護柵のシカ侵入防止効果の検証について	近畿中国	岡山森林管理署	丸山 晃央
	15:45				
14	15:45	ニホンジカ被害防護対策の労力、経費削減の試み	四国	高知中部森林管理署	萩野 伸二
	16:05			四万十森林管理署	豊永 憲文 (元 高知中部森林管理署)
防護ネット、ツリープロテクター等従来のニホンジカ食害防護対策における労力、経費及び維持管理等の負担を軽減するため、当署では、電気柵及び軽量化した斜張式防護ネットを設置し、その効果を検証しているところであり、その途中経過を発表する。					
特別発表	16:05	ドローンによる森林観測技術	LSIによるスマート精密林業コンソーシアム (アジア航測株式会社)	大野 勝正	
	16:35				

《森林保全部門》		第二会場：農林水産省 本館7階 共用第1会議室(午前)			
No.	発表時間	発表課題名	発表者		
			森林管理局	森林管理署等	氏名(元所属)
1	10:00	最北の海岸防災林施業モデル ～造成50年を経て更なる機能発揮への取組と検証～	北海道	林野庁 森林整備部 計画課	尾関 洋 (元 宗谷森林管理署)
	10:20			宗谷森林管理署	大和屋 孝
最北で三方を海に囲まれた厳しい環境の宗谷地域において、海岸防災林を将来にわたり活力ある森林として維持管理していくため、効果的・効率的な森林整備を行いながら、地域の施業モデル林へ向けた取組を報告する。					
2	10:20	民国連携による「松くい虫防除帯森林」の造成について	東北	盛岡森林管理署	松尾 亨
	10:40				
3	10:40	市町村等と連携した森林放射性物質対策事業の取組と効果の検証	関東	福島森林管理署	林崎 裕一
	11:00				黒田 隆
福島県における森林再生事業の効果をより一層高め、地域住民の放射線への不安を取り除くため、市町村等と連携して実施した丸太筋工について、効果を確保するための定点観測と、地元住民への意見聞き取りの成果について発表する。					
【休憩 10分】 11:00 ～ 11:10					
4	11:10	南信森林管理署におけるニホンジカ対策の取組について ～10年間の「職員によるくりワナ捕獲」～	中部	南信森林管理署	南坂 節子
	11:30				竹内 智絵
急激に増加したニホンジカによる農林業被害等が深刻化する中で、防鹿柵の設置等従来の防除対策に加え、平成19年度から職員によるくりワナ捕獲を実施しており、この間の取組の成果と課題を総括し、今後の被害対策の方向について考察する。					
5	11:30	大杉谷国有林における防鹿柵設置による森林植生の回復について～成功例を検証する～	近畿中国	三重森林管理署	石井 貴史
	11:50				
6	11:50	仲間川木道周辺マングローブ林等モニタリング調査について	九州	西表森林生態系保全センター	山部 国広
	12:10				
【昼休み 60分】 12:10 ～ 13:10					
《森林ふれあい部門》		第二会場：農林水産省 本館7階 共用第1会議室(午後)			
No.	発表時間	発表課題名	発表者		
			森林管理局	森林管理署等	氏名(元所属)
1	13:10	将来の ^{もり} 森林づくりを担う人材育成への貢献 ～森林・林業教育支援プログラムの取組～	北海道	十勝西部森林管理署	片山 洸彰
	13:30				竹部 修二
森林・林業における課題の一つとして、将来の森林づくりを担う人材育成は重要な課題である。北海道帯広農業高等学校(森林科学科)と連携して取り組んだ森林・林業教育支援プログラムについて報告する。					
2	13:30	企業及びボランティア団体との連携による取組について ～仁別森林博物館・仁別自然休養林を活用して～	東北	森林整備部 技術普及課	岡浦 貴富
	13:50				
3	13:50	学校との連携を目指して ～ESDの視点を取り入れた森林環境教育の取組～	近畿中国	箕面森林ふれあい推進センター	池田 克司
	14:10				
4	14:10	赤谷プロジェクトにおける地域材の活用の取組 ～カスタネットづくりの取組～	関東	静岡森林管理署	小向 愛 (元 計画保全部計画課)
	14:30				赤谷プロジェクトにおける地域材の活用の取組の事例紹介と今後の地域材の供給について、みなかみ町におけるカスタネット生産を例に紹介する。
【休憩 15分】 14:30 ～ 14:45					
5	14:45	木の文化を支える森づくり活動「首里城古事の森」について ～第2報～	九州	沖縄森林管理署	西田 卓矢
	15:05				曲瀬川 淳一
沖縄に伝わる木の文化、森林・林業について理解を深めてもらうため、本署では首里城の復元・修復に使われているイヌマキ・オキナワウラジオガシなどの樹種を育てる国民参加による植樹作業等の活動を開始した。その活動を通して見えてきた課題や森林環境教育の実施について報告する。					
6	15:05	木曾谷支援の取組について	中部	木曾森林ふれあい推進センター	大石 政弘
	15:25				
7	15:25	地域の課題解決に向けた民有林との連携 ～民有林支援に関する取組紹介(経過報告)～	四国	徳島森林管理署	森本 吉男
	15:45				谷脇 はるか
地域の森林・林業の再生のための課題解決に向けた民国連携の取組が重要であることから、民有林関係者から構成される三好地区ケーススタディ会議を設置し、それらを通じた民国連携及び地域の森林・林業の再生に資する取組について発表する。					

《農林水産省 案内図》 地下鉄霞ヶ関駅をご利用ください。

《本館7階 会場詳細図》



【× モ】